日本大学理事長候補者選考理由書

日本大学理事長選考委員会

1. 選考の方針

日本大学理事長選考委員会（以下、「本委員会」という）は、日本大学再生会議（以下、「再生会議」という）の「答申書」に基づき、貴学で作成された「求められる理事長像」の要件に照らして、新理事長の選考を行いました。

選考に当たっては、元理事及び前理事長による不正事案に係る第三者委員会（以下、「第三者委員会」という）の「元理事及び前理事長による不正事案に係る調査報告書（以下、「報告書」という）、並びに、貴学が文部科学省へ提出した「学校法人日本大学の前理事長及び元理事に係る一連の事案に対する本法人の今後の対応及び方針について（回答）（以下、「回答書」という）を参考にしつつ、再生会議からの代表委員の助言を受けて、慎重かつ公正に、選考を進めました。なお本委員会は、貴学から推薦された2名の委員と、学外の諸組織・有識者等により推薦された学外委員4名から構成されています。

本委員会では、何よりも、大学及び付属校の学生・生徒達が、貴学の教育理念である「自主創造」に則って、誇りを持って学び、活動することのできる環境を整えるために、誠意を持って、貴学の改革を断行して下さる新理事長を選出することに主眼を置いて、選考を進めました。

2. 選考の過程

選考に当たっては、先ず各委員から、回答書にある「学校法人の管理能力に秀でた者、本学出身にこだわらず、これまで本法人の学校運営に何ら関与したことがない者であり、尚且つ組織マネジメントの経験や知見を有する者」であって、「求められる理事長像」に掲げた要件を満たす優れた方々を適宜推薦して頂き、本委員会において、それらの方々から、複数名の適任者を選出しました。

そして、適任者として選出された方々に連絡を取り、ご意向を確認した上で、推薦を承認下さった場合に、貴学の沿革や現状に関する資料（答申書、回答書、求められる理事長像など）をお示しし、ご説明した上で、貴学の課題とその解決に向けたお考えをまとめて頂きました。

さらに、まとめて頂いた書面に基づいて面談を実施し、貴学の理事長として相応しい方か否かを検討しました。面談等が全て終了した段階で、本委員会が貴理事会に推薦する新理事長候補者1名の選考を行いました。

その結果、以下に述べる理由で、林 真理子氏を、推薦させて頂くことになりましたので、ご報告致します。

3. 推薦理由

林 真理子氏（以下、「同氏」という）は、1976 年3月に日本大学芸術学部文芸学科を卒業され、1978 年6月にコピーライターとして広告プロダクションに勤務されて、1982 年 11 月に初めてのエッセイ集を出版されました。

これを機に本格的に執筆活動を始められ、「最終便に間に合えば ・ 京都まで」により第 94 回直木賞（1986 年）を受賞され、その後、「白蓮れんれん」により第8回柴田錬三郎賞（1995 年）、「みんなの秘密」により第 32 回吉川英治文学賞（1998 年）、「アスクレピオスの愛人」により第 20 回島清恋愛文学賞（2013 年）など、数々の賞を受賞され、文学界の第一人者として活躍されています。

また、これまでの国境を越えた創作活動の功績を称えられて、フランス共和国の由緒ある レジオン・ドヌール勲章シュバリエ（2011 年）を受章され、日本でも紫綬褒章（2018 年秋）を受章されています。

一方で、同氏は執筆活動の他に、直木賞の選考委員をはじめ数々の文学賞の選考に携わり、文学界の発展に寄与する傍ら、日本を代表する芸術家・学者・経営者によって組織された文化人団体「エンジン 01 文化戦略会議」の幹事長を 11 年間務めると共に、2020 年5月に公益社団法人「日本文藝家協会」において、初の女性理事長に就任されました。

同氏はそれら多様な人々が集まる団体で、大きなイベント（「エンジン 01 文化戦略会議」における1万5千人規模のイベントや、「日本文藝家協会」における創立百周年事業の策定）を、中心人物として企画し、開催して来られた経験をお持ちです。自らイベントや企画等の立案を行い、多様な方々の意見をしっかりと聴いてとりまとめ、その実現に向けた交渉や寄付金集めなども、ご自身で直接取り組んで来られました。

同氏は、今後の日本大学の経営・運営に関して、新理事長として貴学の再生のために尽くしたいとの固い決意と、改革への高い志を表明されています。特に、「大学の利益は学生・生徒のためのものであり、一般企業における営利追求とは一線を画すものである。」との信念をお持ちであり、また、「何よりも学生と生徒たちの幸せのために、今、思い切った改革を実行することが必要。日本大学の失墜したイメージを先ずは回復し、学生・生徒・卒業生・教職員が誇れる大学に再生していく必要がある。」との考えを強くお持ちです。この考え方は、学校法人の経営・運営において最も基本的で重要な要素であり、貴学が掲げて来られた教育理念とも合致しています。貴学で学ぶ学生・生徒たちが誇りを持って将来への夢を育むためにも、また社会からの信頼と名誉を取り戻して、新生日本大学が船出をするためにも、基盤となる考え方です。

また、同氏は「多くの教職員との対話を重視し、学生・生徒たちも含めて、多くの人たちから意見

を聞いて風通しの良い環境を構築していく。大きな組織の経営や運営は、独断で進められるべきではない。」との考えをお持ちであり、コミュニケーション重視のマネジメント方針を強調されていることから、貴学の今回の一連の不祥事の要因となった「専横的体制」や、第三者委員会の報告書にある「組織の同質性、上命下服の体質」といった風土からの脱却に必要なお考えと実行力を持ち合わせている方だと評価できます。

また、貴学に大きく不足しているダイバーシティに関しては、「女性の役員を登用すると共に女性の教職員を増やしていきたい。」との意見をお持ちで、女性の積極的な進出と活躍の推進を目指しています。但し今後は、女性のみならず、さらに多様な人材の育成・登用にも配慮することが望まれます。

極めて厳しい状況の中で、同氏は貴学の卒業生であることからも、「教職員の皆さまのお力をお借りし、学生や父母の方々のためにも、精一杯努力させていただきたい。」と述べられていることから、本委員会では、強い愛校心も選考における重要な要素の一つと考えました。

選考を進める過程で、同氏は、強い愛校心の下で、途中で投げ出すことのない胆力や、誠実かつ真摯に物事に取り組む姿勢を持った方であることが明確になり、全委員の一致を以て、貴理事会に推薦することに決定いたしました。

なお、本委員会として、同氏に学校経営の経験がないことに関して、貴学が同氏の望む学校経営や運営、その他必要な事項に関して、必要な外部人材も登用するなどのバックアップ体制を整え、支えていくことが必須だと考えており、強くその実現を望みます。

また本委員会では、同氏が新理事長に就任されることが決定しましたら、貴学の「求められる理事長像」を体現するためにも、学校運営やその他必要なバックアップ体制を取ることや補完すべき事項について、同氏の理事長在任期間に亘って、評価と助言を実施することを、同氏にお伝えし、その旨、同氏にはご理解いただいております。

以上のことを総合的に踏まえ、本委員会は、同氏を理事長候補者に相応しい方と判断し、貴理事会に推薦致します。

以　　上